


## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

|   |                             |   |   |           |     |
|---|-----------------------------|---|---|-----------|-----|
| 事業名：一般国道497号（西九州自動車道）<br>伊万里松浦道路<br><small>い万里まつうら</small>  | 事業：一般国道<br>区分：              | 事業：国土交通省<br>主体：九州地方整備局  |   |           |     |
| 起終点：自：佐賀県伊万里市東山代町<br>至：長崎県松浦市志佐町<br><small>い万里ひがしましるちよう</small><br><small>まつうらしさちよう</small>                                       | 延長：17.2km                   |   |   |           |     |
| 事業概要：伊万里松浦道路は、西九州自動車道の一部として計画された路線であり、九州北西部の広域的な連携を図り地域の活性化に大きく寄与するとともに、当該地域の主要幹線道路である一般国道204号の代替路線としての機能も有する。                    |                             |   |   |           |     |
| H9年度事業化   | H17年度都市計画決定<br>(H年度変更)      | H年度用地着手   | H年度工事着手   |           |     |
| 全体事業費   | 約677億円                      | 事業進捗率   | 2%  | 供用済延長     | 0km |
| 計画交通量   | 13,800台/日                   |   |   |           |     |
| 費用対効果分析結果   | B/C：(事業全体) 1.3<br>(残事業) 1.3 | 総費用：(残事業)/(事業全体)<br>560/577億円<br>(事業費：501/517億円)<br>(維持管理費：60/60億円) | 総便益：(残事業)/(事業全体)<br>750/750億円<br>(走行時間短縮便益：643/643億円)<br>(走行費用減少便益：63/63億円)<br>(交通事故減少便益：45/45億円) | 基準年：平成18年 |     |
| 事業の効果等<br>・物流効率化の支援（重要港湾伊万里港のアクセス向上が見込まれる）<br>・災害への備え（緊急輸送道路である国道204号が通行止めになった場合の迂回路となる）<br>他9項目に該当                               |                             |   |   |           |     |
| 関係する地方公共団体等の意見<br>伊万里松浦道路は、地域間交流を促進し、地域活性化に重要な役割を果たすことが期待されており、唐津市をはじめとする沿線の首長等で構成される西九州自動車道建設促進期成会により早期整備の要望（平成18年11月16日）を受けている。 |                             |   |   |           |     |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等<br>・沿線地域の人口は減少傾向にあるものの、自動車保有台数は増加しており自動車依存が高まっている。<br>・重要港湾伊万里港のコンテナ取扱量(H17)が九州3位と急増しており、アクセス向上が求められている。  |                             |   |   |           |     |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等<br>事業進捗率は事業費ベースで2%であり、用地買収については未着手である。  |                             |   |   |           |     |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等<br>完成4車線から完成2車線に道路構造の見直しを行い、平成17年度に都市計画決定し、現在一部区間において用地調査等を実施している。平成19年度より用地買収に着手する予定である。                |                             |   |   |           |     |
| 施設の構造や工法の変更等<br>これまでに道路構造見直し（完成4車線から完成2車線へ）によるコスト縮減を図っており、引き続き事業実施に当たっては、新技術・新工法の積極的活用・建設副産物対策による着実なコスト縮減を図ることとしている。              |                             |   |   |           |     |
| 対応方針：事業継続   |                             |   |   |           |     |
| 対応方針決定の理由<br>以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。   |                             |   |   |           |     |
| 事業概要図<br>                                     |                             |   |   |           |     |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。